

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必須【博士前期課程】
担当教員			
高木 祐介			
講義		109001L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	規範倫理学を中心とした倫理学理論、応用倫理、生命倫理、研究倫理を学習し、研究者に必要な倫理観を培い、倫理的な考察・判断ができるようになることを目指します。
授業の概要	医療現場をはじめとした社会で顕在化する様々な倫理的な課題を整理し、倫理に係る主要な概念について研究します。特に、生命倫理、研究倫理について、具体的な事象を取り扱って、ブレインストーミングやディスカッション、プレゼンテーション等を行い、受講生間で考えを共有、融合し、学びの形をつくっていきます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、哲学と倫理学について</p> <p>第2回 倫理と心理 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 対人関係で生じる心理学的応答 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 社会でみられる倫理的問題とその課題について (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 研究コンプライアンス (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 医療従事者が直面する倫理的問題とその課題について (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 医療従事者に求められる高い倫理観について (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 研究者に求められる高い倫理観について (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 研究不正は防げるか？ (1) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 研究不正は防げるか？ (2) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 研究不正は防げるか？ (3) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 研究に係る倫理的問題を問い直す (1) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 研究に係る倫理的問題を問い直す (2) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 研究に係る倫理的問題を問い直す (3) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 総括 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>定期試験 無し</p>
テキスト	適宜資料等を配布します。
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介します。
学生に対する評価	ミニレポート 75 %、参加・関心 15 %、課題（プレゼンテーション、等） 10 % その他、適宜加点あるいは減点し、総合的に評価します。
課題（試験やレポート）	講義終了時に受け付けます。

等) に対応するフィードバックの方法	
備考	ZOOMにて講義を行う回があります(初回講義で提示)。事前事後の学習は講義内で指示します。講義進度によって予定変更する場合があります。日常生活、特に、メディアを通して、関連すること・関心あることを積極的に調べ、問題テーマを抱くようになって欲しいと思います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択【博士前期課程】
担当教員			
保屋野 健悟			
講義		109002L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	〈よい〉医療専門職として育つために必要な、プロフェッショナルリズムについて学びます。
授業の概要	医療専門職として必要なプロフェッショナルリズムについて、価値観の多様性や専門職としての説明責任、法と倫理、〈よい〉医療専門職、専門職の社会的責務といったキーワードを軸に、アクティブラーニングを用いて、倫理的思考を育てます。
授業計画	<p>第1回 職業倫理とプロフェッショナルリズム（講義） （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 医療コミュニケーションについて（講義、ロールプレイ、グループディスカッション） 基本的態度、医療専門職－患者関係 （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 医療コミュニケーションについて（講義、ロールプレイ、グループディスカッション） 価値観の多様性を理解する （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 専門職の責務、基本的態度について（講義、ロールプレイ、グループディスカッション） 専門職の責務、利他主義、品格や思いやり （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 法と倫理について（講義）安全・安楽を守る外的規範（法）と内的規範（倫理） （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 「よい医療専門職とは？」を考える（講義、グループディスカッション） （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 「よい医療専門職とは？」を考える（プレゼンテーション、グループディスカッション） （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 組織環境の整備、社会への貢献について（講義）組織環境の整備、健康政策への寄与 （事前学修）授業の中で配布した資料に関する自己学習 （事後学修）支持された課題に対する自己学習</p>
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	講義時に紹介
学生に対する評価	ロールプレイ20%、発表資料20%、質疑応答10%、レポート50%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択【博士前期課程】
担当教員			
川端 香・藤田 和樹			
講義		109003L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	コミュニケーションの理論的背景を理解し、現代社会のコミュニケーションの意義と問題について考察し、自己のコミュニケーション観を明示化する。
授業の概要	コミュニケーションとは、情報伝達や意思疎通だけでなく、感情を共有し、交流を図る行動が含まれる。コミュニケーション能力は、相手に自分の考えを伝えるためのスキルを指す。特に、学術論文作成においては、論理的思考力と論理的表現力が求められる。本特論では、客観的な文章構成力及びコミュニケーション力について学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式/全8回) (川端香/全4回) コミュニケーションの基礎と分類、抄録の書き方について学ぶ。 (藤田和樹/全4回) 学会発表での伝え方、論文の書き方について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションの基礎 (川端) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション (川端) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 抄録の書き方① (川端) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 抄録の書き方② (川端) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 学会発表での伝え方① (藤田) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 学会発表での伝え方② (藤田) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 論文の書き方① (藤田) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 論文の書き方② (藤田) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	配布資料
学生に対する評価	ディスカッション50%、レポート50%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メール(kawabata-ot@fukui-hsu.ac.jp.)での対応もします(川端)。 在室時はいつでも対応します。メール(k.fujita@fukui-hsu.ac.jp.)での対応もします(藤田)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2 (60時間)	必須【博士前期課程】
担当教員			
浅井 純子			
演習		109004S6M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	国際共通語としての英語の実態と英語によるコミュニケーションにおける留意点等について講義と演習を行うことにより、自らの課題を科学的・学際的に解決する際に必要となる実践的英語力の育成および論理的思考力の涵養に資することを目標とする。		
授業の概要	国際共通語としての英語の実態について、使用域、音声・統語的特徴、国際コミュニケーションにおける留意事項等について講義と演習を行い、さらに諸外国の医療事情、健康・環境問題等について英語で発信された情報にあたり自らも英語で発信できるようになるための演習を行う。		
授業計画	第1・2回	Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習 自己紹介の準備をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第3・4回	Visit to the clinic 1 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第5・6回	Visit to the clinic 2 復習テスト1 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第7・8回	Injury and pain 1 復習テスト2 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第9・10回	Injury and pain 2 復習テスト3 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第11・12回	Medical examination 1 復習テスト4 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第13・14回	Medical examination 2 復習テスト5 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第15・16回	Presentation 1 プレゼンテーション1を行う 事前学習 プレゼンテーション1に向けてリハーサルを行う 事後学習 プレゼンテーションの評価を見直す	
	第17・18回	Lifestyle-related disease 1 復習テスト6 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備を開始する 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第19・20回	Lifestyle-related disease 2 復習テスト7 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する	
	第21・22回	Dietary restrictions 1 復習テスト8 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習 プリントの予習をする	

	<p>第23・24回 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Dietary restrictions 2 復習テスト9 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第25・26回 Dementia 1 復習テスト10 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第27・28回 Dementia 2 復習テスト11 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習 プリントの予習をする 事後学習 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第29・30回 Presentation 2 プレゼンテーション2を行う 事前学習 プレゼンテーション2に向けてリハーサルを行う 事後学習 プレゼンテーションの評価を見直す</p>
テキスト	プリントを配布します
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	<p>小テスト 20%</p> <p>授業中のアクティビティへの積極的な参加 10%</p> <p>プレゼンテーション1 30%</p> <p>プレゼンテーション2 40%</p>
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	<p>在室時はいつでも可 メールでの対応もします</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必須【博士前期課程】
担当教員			
塩見 格一			
講義		109005L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「自らの研究は先人の研究を踏まえて、次世代の足場とすべきもの」であり、「必ずしも肯定的な成果が得られる訳ではない研究を、否定的な状況においては適正にその状況を克服し、次の研究のシーズとして有意なものとして取りまとめる」ための研究者としての基本的な考え方を、研究者の倫理と整合するものとして理解し、成果を論文として取りまとめるための統計学的な手法等の技術を身に付ける。
授業の概要	先ず、研究者としての科学的である姿勢を、その時々において倫理的にも正しいと認められる姿勢と両立させるための基本的な考え方を理解する。個人が行おうとする研究が、科学的に妥当なものとして認められるための要件を理解し、また研究に必要なデータの収集に係る適切な計画を立案し、適切な分析手法により分析を行う技術的な能力を身に付ける。 機械学習やディープ・ラーニングのような最新の情報処理技術の自らの研究への適用の可否等についても妥当な判断ができるように、可能な限りシミュレーション等の実践的な経験を通して、その概要の理解を進める。
授業計画	<p>第1回 研究とその方法論の概要； 歴史的な哲学（アリストテレス）から近代科学（ガリレオ）への道筋 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 科学的であるための観察者としての姿勢と矜持、またこれに要する現在の科学的パラダイムの理解 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 研究課題の設定、及びそれが科学的に検証可能なものであることを示す理論的な枠組みの理解 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 研究課題とその背景等に係る文献調査とクリティーク（評価・検討・判断） 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 研究倫理の考え方； 人類にもたらされた負の遺産や試練、人体実験や公害対応の歴史 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 研究計画の立て方と、その妥当性の評価手法 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 量的研究の考え方と質的な研究の考え方 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 量的研究の考え方を支える統計的な手法と、質的な研究の考え方を支える統計的な手法 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 公開データ等を利用した予備実験、或は関連する研究における実験の追試行 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 研究の記録とデータ整理の手法と、これを支援するアプリケーションの活用 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 インターネットを利用して集められるデータとその収集を支援するアプリケーション 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 データ整理とデータ分析に係る統計処理ソフトウェア 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 機械学習とディープ・ラーニングの可能性とシミュレーション・ツール 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 研究成果の公表において配慮すべき事柄と、技術的な事柄について 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 研究成果の評価に係る現状； 歴史的な誤解と名誉回復、研究者の矜持 事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	特になし、毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等	アラン・ソーカル&ジャン・ブリクモン 著：知の欺瞞. 岩波書店. スタンレー・ミルグラム 著：服従の心理. 河出書房新社, 映画「QB VII」, 映画「es [エス]」
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択【博士前期課程】
担当教員			
吉田 美幸・川端 香			
講義		109006L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	質的研究方法論の意義と特徴を理解し、基本的な質的研究方法と研究プロセスが説明できる。さらに、質的研究文献のクリティーク方法について検討し、修得することができる。
授業の概要	質的研究の意義と特徴を理解し、研究における理論の重要性、研究デザインと方法、研究結果を実践に活用するためのクリティークについて理解を深める。 また、質的研究方法として、主要なアプローチ方法を理解し、データ収集方法および分析方法を中心に、その妥当性の吟味について理解を深める。 (オムニバス方式／全8回) (吉田美幸／全4回) 質的研究の特徴、質的記述的研究、グラウンデッド・セオリー・アプローチとデータ分析の実際を教授する(川端香／全4回) エスノグラフィー、現象学的アプローチ、研究のクリティークとデータ分析の実際を教授する
授業計画	第1回 質的研究の特徴と進め方 (吉田美幸) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第2回 質的研究におけるデータ収集 (吉田美幸) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第3回 質的研究のクリティーク (川端 香) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第4回 質的研究へのアプローチ：グラウンデッド・セオリー・アプローチ (吉田美幸) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第5回 質的研究へのアプローチ：エスノグラフィー (川端 香) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第6回 質的研究へのアプローチ：現象学的アプローチ (川端 香) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第7回 質的研究のデータ分析の方法と実際① (吉田美幸) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習 第8回 質的研究のデータ分析の方法と実際② (川端 香) (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習
テキスト	特に指定しない。
参考書・参考資料等	坂下玲子, 宮芝智子, 小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版. 医学書院、2023. Polit D.F. & Beck C.T. 近藤潤子監訳：看護研究-原理と方法 第2版. 医学書院、2008/2010. Holloway, I & Wheeler, S. 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版. 医学書院、2002/2006. 松葉祥一, 西村ユミ 編：現象学的看護研究 理論と分析の実際. 医学書院、2014. その他、講義の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	プレゼンテーション30%、レポート70%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
塩見 格一			
講義		109007L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	統計学の考え方の基本を身につけ、その現状における全体像を正しく捉え、統計学的なデータ処理手法を適正に利用する技術を身につける。またこれと共に、社会に様々な提示されている情報の真偽や価値を合理的に評価するための知識等を、統計処理ソフトウェアや AI関連ソフトウェア等々の用法等を含めて、その時々を獲得するための基本的な技術も身につける。
授業の概要	統計学の発展の歴史を踏まえて、現代の統計学の考え方を理解する。確率論から記述統計、推計統計、またベイズ統計の再発見、等々の生起を追体験し、その都度に確立された手法をその基本となる考え方と共に理解する。また、併せて最新の統計処理アプリケーション等情報処理技術に触れ、個人々の必要に応じた利用を可能とするための基礎知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 統計学の概要 ～ 統計学は何を目的としてどの様に発展して来たのか、また何を明らかにしたのか (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 統計学を発展させた人々の業績とその概要 ～ ピアソン、ゴセット、フィッシャー (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 確率論、記述統計学、相関分析；ピアソンの足跡を辿る (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 表計算ソフトによるデータの視覚化、相関係数の算出 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 推計統計学と t 分布、t 検定；ゴセットの足跡を辿る (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 表計算ソフトによる推定と仮説検定 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 推計統計学と分散分析、実験計画法；フィッシャーの足跡を辿る (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 表計算ソフトによる推定と仮説検定、回帰分析 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 統計処理ソフトウェアの機能と特徴、簡単な使い方 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 統計処理ソフトウェアの用法 ～ 「R」導入、データ処理、処理結果の出力と視覚化 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 フィッシャーの情報理論とシャノンの情報理論 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 サベージによるベイズ統計学の再発見 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 時系列分析；基本的な考え方、ARモデル (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 機械学習；ビッグデータ、ディープラーニング (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 統計学の発展に向けて ～ データサイエンスの最前線 ～ Kaggle (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	特になし、毎回資料を配布する。
参考書・参考資料等	サルツブルグ 著：統計学を拓いた異才たち 日本経済新聞社。 豊田秀樹 著：Rで「学ぶ」・・・シリーズ 東京図書。
学生に対する評価	筆記試験100%

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必須【博士前期課程】
担当教員			
寺岡 英男			
講義・演習			
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	日本の教育と学校について、近代以降の歴史と現在の状況を国際的な視点も含めて捉えなおし、その意味と課題を明らかにする。
授業の概要	教育の本質と学校の任務、日本の近代以降の教育と戦後教育改革の展開、子どもの捉え方をめぐる学習観の転換と、現在の状況を学び、OECD/PISAの達成度評価を契機にしたリテラシーと評価等を見ながら日本の教育のこれからの現在の課題について深める。
授業計画	<p>第1回 教育の本質（社会との関わりで） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 学校の任務 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 近代学校の理念と現実 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 デューイの原典を読む （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 日本の近代化と教育 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 戦後の教育改革とその展開 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 教科書裁判の事例をもとに （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 グループ討議と小レポート作成 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 子どもをどう捉えるか（発達と教育） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 学習観の転換 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 現在の子どもの状況（その事例研究） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 OECD/PISAの達成度評価 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 それを契機にしたリテラシー形成と評価 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 グループ討議と小レポート作成 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 グループでの報告と討議（ラウンドテーブル） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	特に定めない。
参考書・参考資料等	その都度配布する。
学生に対する評価	グループ討議50%、レポート50%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。

備考	
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
趙 雪梅			
講義・演習			
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	本来の教育実践にあり方について、授業実践の事例と省察的实践に取り組む方法と理論を学ぶことを通して深める
授業の概要	教科の教育内容・教材の再編による実践、特別活動での実践の事例を通して教育実践のあり方を学ぶ。さらに医療の専門的な実践は、実践とその省察とを長期にわたって展開するプロセスとその組織・システムの形成を求めることを学び、自らの専門的力量形成の展開に資する。
授業計画	<p>第1回 教育学と教育実践（家永教育裁判の判決を手がかりに） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 教育実践の具体的事例①（教育内容・教材と授業の実践から 数学①） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 教育実践の具体的事例②（数学②） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 教育実践の具体的事例③（科学教育） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 グループ討議と小レポート作成 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 教育実践の具体的事例①（特別活動の実践から） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 教育実践の具体的事例②（特別活動の実践から） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 これまでの2つの領域での実践事例に共通するもの （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 実践者の省察的探求（実践記録を読む） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 グループ討議 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 省察的実践と専門的な力量形成 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 医療実践における省察的実践の事例 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 省察的実践研究の構造（組織、システムのあり方） （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 小レポート作成 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 グループでの小レポート報告と交流 （事前・事後学修） 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	特に定めない
参考書・参考資料等	その都度資料を用意する。
学生に対する評価	レポート100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。

備考	
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必須【博士前期課程】
担当教員			
保屋野 健悟・東 伸英			
講義		109010L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	IPW（専門職連携実践）の基盤となる理論と実践方法およびその教育方法であるIPE（専門職連携教育）について学習し、IPW・IPE実践力を身につける。 1. ヒューマンケアを構成する諸概念と専門職の倫理綱領等における関連概念の位置づけと特徴が理解できる。 2. IPWの基本的原理、必要な諸理論および評価について理解できる。 3. IPWにおける問題とその解決方法が理解できる。 4. IPWにおけるリフレクション・ファシリテーションの理論と方法、意義について理解できる。また、意思決定支援におけるIPWとファシリテーションの役割を理解できる。 5. 講義で示された理論や概念を用いて、自らのIPW実践の課題およびその改善方法について提案することができる。
授業の概要	Inter-professional Work ; IPW（専門職連携実践）の発展の歴史、基盤となる理論と実践方法およびその教育方法である Inter-professional Education ; IPE（専門職連携教育）の意義について教授する。 保健医療福祉教育の連携実践場面における課題解決にむけて、IPWの視点で分析しIPWを促進できる力を培う。 オムニバス方式／全8回 （保屋野健悟／全4回）IPW、IPEについて学ぶ。 （東伸英／全4回）IPWの視点での分析について学ぶ。
授業計画	第1回 IPWの基盤となるヒューマンケア（保屋野） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第2回 チームに関する理論とIPWへの適用（保屋野） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第3回 連携上の問題と解決方法（職業的同一性・葛藤等）（保屋野） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第4回 IPW、IPEに関するまとめとディスカッション（保屋野） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第5回 IPWにおけるファシリテーション（東伸英） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第6回 リフレクションの理論とIPW・IPEにおける意義（東伸英） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第7回 IPWの評価（東伸英） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。 第8回 IPWの視点での分析のまとめとディスカッション（東伸英） 事前学習：配布資料に関する自己学習 事後学習：各回の学びから自分のIPW実践、自職種、自組織の省察を行いまとめておく。
テキスト	指定しない。 必要に応じて紹介、または文献を提示する。
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する。
学生に対する評価	レポート課題100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
東 伸英			
講義		119011L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	運動器機能障害治療における最新のエビデンスに基づいた基礎科学、評価・治療の基本概念、評価・治療の基礎技術を理解する。
授業の概要	運動器機能障害治療における最新のエビデンスに基づいた基礎科学、評価・治療の基本概念、評価・治療の国際水準の技術を教授する。基礎科学としては神経筋骨格系の解剖・運動学、評価・治療の基本概念としては観察、運動機能評価、神経学的検査、診断学的検査と機能診断について講義する。技術では脊柱と四肢の評価・治療手技の実技指導を行う。評価治療技術には観察、触診、運動機能評価、関節包内運動検査、神経学的検査、診断学的検査と機能診断、関節モビライゼーション、軟部組織モビライゼーション、神経モビライゼーション、運動併用モビライゼーションなどを含む。これらを医療施設における評価・治療、学校、スポーツ現場、地域における障害・外傷予防、パフォーマンス向上・健康増進のために実践する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 運動器障害治療学総論—運動器障害の概念と評価治療体系とそのエビデンス</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学と運動学について講義し、後半の60分で運動器の障害特性と評価治療体系とそのエビデンスについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第2回 神経筋骨格系の解剖・運動学—解剖学・運動学(骨運動学、関節運動学)と機能評価・治療の原理と手技およびそのエビデンス</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学(骨運動学、関節運動学)と機能について講義し、後半の60分で機能評価・治療の原理と手技およびそのエビデンスについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第3回 評価治療とその実際(問診、観察、触診、運動機能評価、神経学的検査、診断学的検査と機能診断)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学(骨運動学、関節運動学)と機能について講義し、後半の60分で運動器障害の問診、観察、触診、運動機能評価、神経学的検査、診断学的検査と機能診断と手技の基礎概念とそのエビデンスについて講義し実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第4回 観察と触診(体型、姿勢、アライメント、軟部組織の状態などの観察と触診による評価)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学(骨運動学、関節運動学)と機能について講義し、後半の60分で観察と触診の実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第5回 運動機能評価(自動運動検査、他動運動検査、等尺性収縮運動検査、関節包内運動検査)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学(骨運動学、関節運動学)と機能について講義し、後半の60分で運動機能評価の実技演習を行う。</p>

第6回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>神経学的検査と理学療法 (神経ダイナミック検査と神経モビライゼーション) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で神経学的検査と理学療法の実技演習を行う。</p>
第7回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション① (頸椎・上部胸椎) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション (頸椎・上部胸椎) の実技演習を行う。</p>
第8回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション② (下部胸椎・腰椎) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション (下部胸椎・腰椎) の実技演習を行う。</p>
第9回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション③ (肩甲帯・肩関節) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション (肩甲帯・肩関節) の実技演習を行う。</p>
第10回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション④ (肘・前腕・手関節・手指) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション (肘・前腕・手関節・手指) の実技演習を行う。</p>
第11回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション⑤ (骨盤・股関節) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨運動学、関節運動学) と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション (骨盤・股関節) の実技演習を行う。</p>
第12回	<p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>運動併用モビライゼーション⑥ (膝・下腿・足関節・足部) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は運動器系の解剖学・運動学 (骨</p>

	<p>運動学、関節運動学)と機能について講義し、後半の60分で運動併用モビライゼーション(膝・下腿・足関節・足部)の実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>医療施設における実践一障害・外傷の評価治療の実際 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的な知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は医療施設における運動機能障害・外傷の基本と特徴について講義し、後半の60分で評価治療の実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>学校、スポーツ現場での実践一障害・外傷予防、パフォーマンス向上のための支援 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的な知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は学校、スポーツ現場における運動機能障害・外傷の基本と特徴について講義し、後半の60分で評価治療の実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>地域での実践一障害・外傷予防、健康増進のための支援 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的な知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は地域における運動機能障害・外傷の基本と特徴について講義し、後半の60分で評価治療の実技演習を行う。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 事前に配布した資料とテキストと参考書の該当ページを指示し、事前事後の学修をしてもらう。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p>
第13回	
第14回	
第15回	
テキスト	藤縄理 著：徒手の理学療法。三輪書店。
参考書・参考資料等	奈良勲・他 編：系統別・治療手技の展開 改訂第2版。協同医書出版。 藤縄理・他 訳・監訳：マリガンのマニュアルセラピー。協同医書出版。 伊藤直栄・他 監訳：パトラー・神経系モビライゼーション。
学生に対する評価	筆記試験80%、演習(文献研究)20%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。 講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
東 伸英			
演習		119012S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	運動器機能障害治療における評価・治療の基礎技術の臨床応用と臨床推論の実際、および最新のエビデンスについて理解を深めるとともに、医療機関、地域、学校、スポーツ現場での応用技術を習得する。
授業の概要	運動器機能障害治療における評価・治療および臨床推論と地域、学校、スポーツ現場での実践方法について演習する。頭部および頸部、胸椎、腰椎骨盤帯、肩甲帯上肢、骨盤帯下肢、そして神経系の評価・治療の基礎技術と応用技術について実際の症例・事例を持ち寄って演習する。さらに、これらの評価・治療に関するエビデンスについて検討し、症例研究・事例研究を通じて臨床推論能力を向上させる。
授業計画	<p>「運動器リハビリテーション特論演習 I」を履修する学生は「運動器リハビリテーション特論 I」を履修していること</p> <p>第1回 運動器障害治療における臨床推論①（運動器障害の評価・治療の臨床推論方法の実際とエビデンス） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第2回 運動器障害治療における臨床推論②（最新のエビデンスに基づいた医療機関、地域、学校、スポーツ現場における臨床推論の実際） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第3回 頭部・頸椎の評価治療（筋緊張性頭痛、頸部痛、頸部由来の上肢痛などの評価・治療演習） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第4回 胸椎・肋骨の評価治療（胸背部痛、肋骨および肋間痛、胸郭出口症候群などの評価・治療演習） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第5回 腰椎・骨盤の評価治療（腰痛・殿部痛・腰部骨盤由来の下肢痛の評価・治療演習） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第6回 肩甲帯・肩関節の評価治療（肩インピンジメントなどを含む肩甲帯・肩関節の障害による痛みや機能異常についての評価・治療演習） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第7回 肘・前腕の評価・治療（テニスエルボー・ゴルフエルボーなどを含む肘・前腕の障害による痛みや機能異常についての評価・治療演習） （事前・事後学修） 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。 事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p> <p>第8回 手根・手指の評価・治療（手根・手指の障害による痛みや機能異常の評価・治療演習）</p>

	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 股関節の評価・治療（股関節やその周囲組織の障害による痛みや機能異常の評価・治療演習）</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 膝関節の評価治療（膝関節やその周囲組織の障害による痛みや機能異常の評価・治療演習）</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 足根・足部の評価治療（足根・足部の障害による痛みや機能異常の評価・治療演習）</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 神経機能異常の評価治療①（軟部組織による末梢神経絞扼症状など機能障害によって起こる上半身の神経機能異常の評価治療演習）</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 神経機能異常の評価治療②（軟部組織による末梢神経絞扼症状など機能障害によって起こる下半身の神経機能異常の評価治療演習）</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 文献レビュー（運動器障害の評価・治療、地域、スポーツ現場での障害・外傷予防、健康増進についてのエビデンスに関する文献レビュー発表） 学生の専門領域における運動器障害に対する文献であれば、テーマは問わない。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。 症例研究・事例研究（日常の臨床、地域、学校、スポーツ現場での実践についての研究発表） 学生の専門領域における症例・事例に対して、「運動器リハビリテーション特論Ⅰ」および「運動器リハビリテーション特論演習Ⅰ」で学修した内容が活かされていれば、テーマ・内容は問わない。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 事後：学習する内容は実践的な理論・知識と技術なので、常に実践して会得し、向上させてください。</p> <p>事前・事後学修で援助が必要な場合は、その都度スケジュールを調整して対応する。</p>
テキスト	藤縄理 編：ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング、文光堂。 藤縄理・他 訳・監訳：マリガンのマニュアルセラピー、協同医書出版。
参考書・参考資料等	藤縄理 著：徒手の理学療法、三輪書店 奈良勲・他 編：系統別・治療手技の展開 改訂第2版、協同医書出版。他
学生に対する評価	口頭試問60%、実技試験20%、文献レビュー及び症例研究発表20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。 講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
近藤 仁・東 伸英			
講義		119013L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	スポーツ傷害に対する理学療法の基本を理解し、アスレティックリハビリテーションの目的である早期復帰に向けた対応策を学ぶ。
授業の概要	各部位に代表的なスポーツ傷害の特徴を理解し、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理を理解する。スポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションの基本的考えを学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (東伸英/全2回) スポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーション概要、スポーツ外傷・障害総論について学ぶ。 (近藤仁/全13回) スポーツ外傷・障害各論、障害の評価、スポーツ理学療法の実際、アスレティックリハビリテーションについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 スポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーション概要 (東伸英) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーション概要について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第2回 スポーツ外傷・障害総論 (東伸英) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はスポーツ外傷・障害に関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でスポーツ外傷・障害について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第3回 スポーツ外傷・障害各論①(上肢) (近藤仁) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は上肢のスポーツ外傷・障害に関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分で上肢に関するスポーツ外傷・障害について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第4回 スポーツ外傷・障害各論②(下肢) (近藤仁) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は下肢のスポーツ外傷・障害に関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分で下肢に関するスポーツ外傷・障害について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第5回 スポーツ外傷・障害各論③(頸部・体幹) (近藤仁) 受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は頸部・体幹のスポーツ外傷・障害に関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分で頸部・体幹に関するスポーツ外傷・障害について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>

第6回	<p>スポーツ外傷・障害の評価①(上肢) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分を上肢のスポーツ外傷・障害の評価に必要な基本的な検査法を講義し、後半の60分で上肢に関するスポーツ外傷・障害に特化した評価について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第7回	<p>スポーツ外傷・障害の評価②(下肢) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は下肢のスポーツ外傷・障害の評価に必要な基本的な検査法を講義し、後半の60分で下肢に関するスポーツ外傷・障害に特化した評価について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第8回	<p>スポーツ外傷・障害の評価③(頸部・体幹) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分は頸部・体幹のスポーツ外傷・障害の評価に必要な基本的な検査法を講義し、後半の60分で頸部・体幹に関するスポーツ外傷・障害に特化した評価について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第9回	<p>スポーツ理学療法の実際①(上肢) (近藤仁)</p> <p>第3回、第6回の復讐を前半の30分で確認し、その後実技を交えてスポーツ理学療法を講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第10回	<p>スポーツ理学療法の実際②(下肢) (近藤仁)</p> <p>第4回、第7回の復讐を前半の30分で確認し、その後実技を交えてスポーツ理学療法を講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第11回	<p>スポーツ理学療法の実際③(頸部・体幹) (近藤仁)</p> <p>第5回、第8回の復讐を前半の30分で確認し、その後実技を交えてスポーツ理学療法を講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第12回	<p>アスレティックリハビリテーション①(急性期・保護期) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はメディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの相違について講義し、後半の60分で保護期のアスレティックリハビリテーションについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第13回	<p>アスレティックリハビリテーション②(前期) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はメディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの相違について講義し、後半の60分で前期アスレティックリハビリテーションについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
第14回	<p>アスレティックリハビリテーション③(後期) (近藤仁)</p>

	<p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はメディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの相違について講義し、後半の60分で後期アスレティックリハビリテーションについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第15回 アスレティックリハビリテーション④(復帰期・再発防止) (近藤仁)</p> <p>受講学生の基礎的な知識の確認を行い、不足している場合は基礎的知識の習得を目的に、また十分な知識を有している場合であっても基礎知識の定着および深化を目的に事前・事後学習または講義の前半において基本的な知識の補足を行う。前半の30分はメディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの相違について講義し、後半の60分で復帰期のアスレティックリハビリテーションについて講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>定期試験</p>
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	宮下浩二；上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2012 小柳磨毅；下肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2014 山本利春；競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2013
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時は対応します。メールでの対応も可能。 講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
近藤 仁・東 伸英			
演習		119014S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	スポーツ傷害に対する理学療法の基本を理解し、アスレティックリハビリテーションの目的である早期復帰に向けた対応策を学ぶ。
授業の概要	各部位に代表的なスポーツ傷害の特徴を理解し、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理を理解する。スポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションの基本的考えを学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解する。
授業計画	<p>第1回 段階的アスレティックリハビリテーションの捉え方 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分で段階的アスレティックリハビリテーションの捉え方について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第2回 アスレティックリハビリテーション方法①(OKC) 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でアスレティックリハビリテーション方法(OKC)の捉え方について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第3回 アスレティックリハビリテーション方法②(SCKC) 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でアスレティックリハビリテーション方法(SCKC)の捉え方について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第4回 アスレティックリハビリテーション方法③(CKC) 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でアスレティックリハビリテーション方法(CKC)の捉え方について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第5回 スポーツ理学療法の病態とアスレティックリハビリテーションプログラム①(上肢) 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分で段階的アスレティックリハビリテーションの捉え方について講義する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>第6回 スポーツ理学療法の病態とアスレティックリハビリテーションプログラム②(下肢) 学部において運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分をスポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションに関する解剖学と運動学を講義し、後半の60分でスポーツ理学療法の病態とアスレティックリハビリテーションプログラム(下肢)の捉え方について講義する。</p>

第7回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際①(野球) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第8回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際②(テニス) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第9回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際③(バレーボール) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第10回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際④(サッカー) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第11回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際⑤(陸上・短距離) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第12回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際⑥(バスケットボール) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第13回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>競技種目特性を考慮したアスレティックリハビリテーションの実際⑦(陸上・長距離) 運動器系理学療法および運動器系リハビリテーション等に関連する講義を履修していない学生が履修した場合、前半の30分を競技種目特性やスポーツ外傷・障害の特徴等について講義し、競技種目別のアスレティックリハビリテーションの考え方を講義する。</p>
第14回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p> <p>文献レビュー(スポーツ傷害とアスレティックリハビリテーションに関する文献レビューを发表) 第1回～6回までの講義を参考に、興味を湧いたアスレティックリハビリテーションやトレーニング等について文献レビューする。</p>

第15回	<p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。 症例研究(早期復帰に向けたアスレティックリハビリテーションの遂行に不可欠な要素と競技特性を発表) 該当症例がない場合は、第7回～13回までの講義を参考に、興味が湧いた競技種目についてアスレティックリハビリテーションやトレーニング等について立案する。</p> <p>(事前・事後学修) 事前：文献研究、症例研究のテーマは授業開始初期に決定し発表までに準備をしておいてください 必要に応じてテキストを購入してもらい、講義前後に学習範囲を指定し、自己学習をして講義に臨んでもらう。</p>
テキスト	<p>宮下浩二；上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2012 小柳磨毅；下肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2014 山本利春；競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング，文光堂．2013</p>
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	口頭試問60%、実技試験20%、文献レビュー及び症例研究発表20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時に対応します。メールでの対応も可能。講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
小林康孝・林浩嗣・石田圭二・藤田和樹・川端香・保屋野 健悟			
講義		119015L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	運動障害、高次脳機能障害の障害メカニズムおよび原因疾患である脳血管障害、認知症の病態メカニズムを幅広い視野で学ぶ。加えて、研究の基礎を学ぶことで、今後の臨床活動及び研究活動の基盤とする。
授業の概要	<p>神経系リハビリテーションは、脳血管障害や神経変性疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害を主な対象とする。これらの病態メカニズムや障害メカニズムについて学び、近年の神経科学の知見に基づいたリハビリテーションに関する研究に繋がるような基礎知識や研究方法を修学する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (小林康孝/全2回) 研究デザイン、統計について学ぶ。 (林 浩嗣/全2回) 脳血管障害、認知症について学ぶ。 (石田圭二/全1回) 上肢機能障害とそのリハビリテーションについて学ぶ。 (川端香/全4回) 高次脳機能障害に対するself-awareness、スライド作成について学ぶ。 (藤田和樹/全4回) 運動の動作解析、文献検索、統計について学ぶ。 (保屋野健悟/全2回) 摂食嚥下障害の神経メカニズム、脳機能イメージングについて学ぶ</p>
授業計画	<p>第1回 研究デザイン (小林) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第2回 文献検索方法 (藤田) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第3回 統計①：統計に関する基礎知識 (藤田) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第4回 統計②：統計学的手法の実践 (小林) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第5回 脳血管障害のメカニズムと医学的治療 (林) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第6回 認知症のメカニズムと医学的治療 (林) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第7回 上肢機能支援ロボット、上肢麻痺のリハビリテーション (石田) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第8回 運動の動作解析① (藤田) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第9回 運動の動作解析② (藤田) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第10回 発表スライド作成における注意事項 (川端) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第11回 研究倫理：不正行為および倫理審査書類について (川端) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第12回 症例報告の効果的な書き方 (川端) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第13回 高次脳機能障害とself-awareness (川端) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第14回 摂食嚥下障害の神経メカニズム (保屋野) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第15回 脳機能イメージングの測定と応用 (保屋野) (事前・事後学修) 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p>
テキスト	配布資料

参考書・参考資料等	水野美邦 編著：神経内科ハンドブック 第5版 鑑別診断と治療. 医学書院, 2016. 山田正仁 編著：認知症診療実践ハンドブック. 中外医学社, 2017. 森岡周 著：リハビリテーションのための脳・神経科学入門 改訂第2版. 協同医書, 2016. 石合純夫 著：高次脳機能障害学 第2版. 医歯薬出版, 2012.
学生に対する評価	プレゼンテーション50%、レポート50%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中・終了時に適宜返答します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
小林康孝・佐藤万美子・藤田和樹・川端香			
演習		119016S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	研究方法を習得し、研究計画をプレゼンテーションできる。
授業の概要	研究倫理から研究計画の立案・発表にいたる研究の基礎を学ぶ。また、神経系リハビリテーション特論 I の講義内容の理解をより深めるため、演習形式にて神経リハビリテーションに関する先行研究調査や研究方法及び実際の症例に対する支援を学ぶことで、解決すべき研究課題をみつけ、討議しながら解決方法を探究する。 (オムニバス方式/全15回) (小林康孝/全2回) 研究全般および研究計画(クリニカルクエスト)について学ぶ。 (佐藤万美子/全3回) 研究計画(リサーチクエスト)について学び、文献抄読を通して理解を深める。 (川端香/全5回) 研究計画(社会的背景、臨床的背景)について学び、文献抄読を通して理解を深める。 (藤田和樹/全5回) 研究計画(新奇性、目的、デザイン)について学び、文献抄読を通して理解を深める。
授業計画	<p>第1回 研究オリエンテーション(小林) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第2回 研究計画プレゼンテーション：クリニカルクエスト(小林) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第3回 研究計画プレゼンテーション：リサーチクエスト(佐藤) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第4回 文献抄読①(佐藤) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第5回 文献抄読②(佐藤) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第6回 研究計画プレゼンテーション：社会的背景、臨床的背景(川端) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第7回 文献抄読③(川端) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第8回 文献抄読④(川端) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第9回 文献抄読⑤(川端) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第10回 文献抄読⑥(川端) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第11回 研究計画プレゼンテーション：先行研究のまとめ①(藤田) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第12回 研究計画プレゼンテーション：先行研究のまとめ②(藤田) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第13回 研究計画プレゼンテーション：先行研究における限界点、研究の新奇性(藤田) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第14回 研究計画プレゼンテーション：研究目的、研究デザイン(藤田) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p> <p>第15回 研究計画書作成(藤田) (事前・事後学修) 研究方法及び研究計画に関する自己学習</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	なし

学生に対する評価	プレゼンテーション100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中・終了時に適宜返答します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
堀秀昭・藤本昭・堀敦志			
講義		119017L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高齢者の身体的特徴を理解し、加齢による運動機能の障害について客観的にとらえ手法を学ぶ。また地域での生活支援を考える。
授業の概要	<p>高齢者の身体的特徴は、加齢によって生理機能の低下が生じる。体の器官を構成している細胞にも老化は起こり、細胞数の減少や細胞の働きが低下することによって臓器の機能低下もみられる。また、運動機能の低下、感覚機能の低下、神経機能の低下等が加齢による生理機能の低下により生じる。高齢者の加齢の特徴を、神経学的観点から考え、高齢者の地域での生活を支援することを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (堀秀昭/全5回)</p> <p>高齢者と地域リハビリテーション、地域包括ケア、災害対策について学ぶ。 (藤本昭/全5回)</p> <p>加齢による運動機能障害、高齢者の運動機能評価、介護予防・転倒予防と効果判定について学ぶ。 (堀敦志/全5回)</p> <p>在宅高齢者の生活行為向上マネジメントについて学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 高齢者と地域リハビリテーション（地域リハにおける課題と研究）（堀秀昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第2回 高齢者の身体的特徴と地域リハビリテーション①（事例と討議）（堀秀昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第3回 高齢者の身体的特徴と地域リハビリテーション②（事例と討議）（堀秀昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第4回 高齢者と地域包括ケア（堀秀昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第5回 高齢者と災害対策（堀秀昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第6回 加齢と運動機能障害（藤本昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第7回 高齢者の運動機能評価（藤本昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第8回 高齢者の運動機能と認識誤差（藤本昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第9回 高齢者の介護予防・転倒予防の理論と実際（藤本昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第10回 高齢者の介護予防・転倒予防における効果判定（藤本昭） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第11回 在宅高齢者の生活行為向上マネジメント①（概論）（堀敦志） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第12回 在宅高齢者の生活行為向上マネジメント②（身体障害領域）（堀敦志） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第13回 在宅高齢者の生活行為向上マネジメント③（老年期障害領域）（堀敦志） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第14回 在宅高齢者の生活行為向上マネジメント④（その他領域）（堀敦志） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第15回 在宅高齢者の生活行為向上マネジメント⑤（全領域まとめ）（堀敦志） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p>
テキスト	配布資料

参考書・参考資料等	日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント。医歯薬出版株式会社，2015.
学生に対する評価	課題レポート100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
小林康孝・佐藤万美子・藤田和樹・川端 香			
演習		119018S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	運動機能の低下、感覚機能の低下、神経機能の低下、加齢による生理機能の低下により生じる特徴を、客観的にとらえる手法を学ぶ。		
授業の概要	神経系リハビリテーション特論Ⅱの講義内容の理解をより深めるため、演習形式にて神経リハビリテーションに関する先行研究調査や研究法及び実際の症例に対する支援を学ぶことで、予備実験を通して解決すべき課題をみつけ、討議しながら研究計画を熟考する。 (オムニバス方式/全15回) (小林康孝/全2回) 研究全般について学ぶ。 (佐藤万美子/全3回) 研究デザインについて学び、文献抄読を通して理解を深める。 (川端香/全5回) 研究環境、使用機器、収集データについて学び、研究計画書作成に繋げる。 (藤田和樹/全5回) 解析方法について学び、予備実験を通して研究計画を修正する能力を身につける。		
授業計画	第1回	研究オリエンテーション (小林) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第2回	研究計画プレゼンテーション：背景、先行研究のまとめ、研究目的 (小林) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第3回	研究計画プレゼンテーション：研究デザイン (佐藤) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第4回	文献抄読① (佐藤) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第5回	文献抄読② (佐藤) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第6回	研究計画プレゼンテーション：対象と方法 (環境、使用機器、収集データ) (川端) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第7回	文献抄読③ (川端) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第8回	文献抄読④ (川端) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第9回	文献抄読⑤ (川端) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第10回	研究計画プレゼンテーション：解析方法 (藤田) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第11回	予備実験① (藤田) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第12回	予備実験② (藤田) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第13回	研究計画プレゼンテーション：予備実験の結果報告 (藤田) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第14回	研究計画プレゼンテーション：研究計画の修正 (藤田) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
	第15回	研究計画書作成 (川端) (事前・事後学修) 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習	
テキスト	配布資料		
参考書・参考資料等	なし		

学生に対する評価	プレゼンテーション100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。講義中および終了時に適宜返答します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択【博士前期課程】
担当教員			
供田文宏・北川敦子			
講義		119019L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康の概要を理解し、健康維持のためのライフスタイルとか生活習慣病の克服に向けての対策を学的に立案するとともに精神心理学的な側面や行動学的特性からも検討する。
授業の概要	健康生活を維持・継続していくための要因を追究し、日常生活で起こりうる健康問題についてあらゆる角度から科学的に明らかにし、解決する手法を学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (供田文宏／全4回) 現代に至る健康概念の変遷と国民健康の現況を学ぶ。健康の維持と増進のための生活習慣を科学的に理解する。生活習慣の発症機序と予防を学ぶ。 日本の医療、保健、ライフサイクルからみた健康生活、生活習慣病と予防について学ぶ。 (北川敦子／全4回) 精神心理学的側面および人間の行動学特性から健康の維持と増進のための理論と方策を理解する。
授業計画	<p>第1回 健康被害を促す食生活の問題点とその対応 (供田文宏) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第2回 ストレスと健康被害：交感神経系の生体に及ぼす影響からの考察 (供田文宏) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第3回 ストレスと健康被害：視床下部・下垂体・副腎皮質系の生体に及ぼす影響からの考察 (供田文宏) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第4回 老化による健康被害：健康寿命を延ばすための対策とは？ (供田文宏) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第5回 健康生成論、メンタルヘルスマネジメントと健康生活との関係 (北川敦子) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第6回 行動学特性からみた健康生活とは (北川敦子) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第7回 自律神経系とストレス：指尖脈波計・ウェアラブルセンサーを用いて健康状態を把握する (北川敦子) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第8回 健康生活行動の教育・指導を考察する (北川敦子) (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p>
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	必要な資料は適宜配布します。
学生に対する評価	レポート100% (供田50%、北川50%)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択【博士前期課程】
担当教員			
青井 利哉			
講義		119020L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人の生涯にわたる心理・社会的発達課題を多面的な角度から省察し、より良い支援の方策を学修する。
授業の概要	人は生涯発達し続ける存在である。心理社会的発達について、さまざまな理論を知ると同時に、人の生涯発達における各段階の課題について理解し、人が不適応を起こす際にどのようなことが原因となり得るのかを見立てるための基礎を身につける。本講義では人の発達理解と発達支援の枠組みを紹介した後、各自発達研究論文を講読し、議論する。臨床現場において、人間を発達の観点から理解し支援できるようにしたい。
授業計画	<p>第1回 生涯発達の影響要因（発達過程と発達期の区分について理解する。遺伝説、環境説、輻輳説などの発達要因について理解する） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第2回 人の発達における様々な理論①（認知発達理論 ピアジェの認知発達理論について理解する） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第3回 人の発達における様々な理論②（心理社会的発達理論 エリクソンの発達理論について理解する） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第4回 人の発達における様々な理論③（心の理論 プレマックらによる心の理論および心の理論と発達との関連について理解する） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第5回 人の発達における様々な理論④（愛着理論 ボウルビイの愛着理論とその今日的意義について理解する） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第6回 論文講読①（各自が選択した論文についての紹介、議論） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第7回 論文講読②（各自が選択した論文についての紹介、議論） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p> <p>第8回 論文講読③（各自が選択した論文についての紹介、議論乳児期の発達における問題と支援） （事前・事後学修） 授業の中で配布した資料に関する自己学習</p>
テキスト	講義の中で適宜紹介する。
参考書・参考資料等	友田明美 著：いやされない傷—児童虐待と傷ついていく脳、診断と治療社、2011。 上田礼子：生涯人間発達学、三輪書店、2012。 渡辺弥生・榎本淳子 編：発達と臨床の心理学、ナカニシヤ出版、2012。 杉山登志郎 著：子育てで一番大切なこと 愛着形成と発達障害、講談社、2018。
学生に対する評価	発表50%、レポート課題50%で総合評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後
備考	

講義科目名称： 健康教育特論

授業コード： G21100A

英文科目名称： @

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必須【博士前期課程】
担当教員			
小林 康孝・佐藤 万美子			
講義		119021L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康教育の理念と方法、および各対象の特徴を捉えた健康教育とヘルスプロモーションについて説明できる。さらに健康教育における研究方法について理解し、説明できる基盤をつくる。
授業の概要	健康生活支援のための健康教育の理念や方法を理解し、各疾患の特徴に合わせた健康教育および研究方法について学修する。 (オムニバス方式／全8回) (小林康孝／全4回) 健康概念の変遷、栄養素に関する健康教育について学ぶ (佐藤万美子／全4回) 生活習慣病に関する健康教育について学ぶ
授業計画	第1回 健康概念の変遷 (小林) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第2回 健康教育① (栄養素1) (小林) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第3回 健康教育② (栄養素2) (小林) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第4回 栄養素に関する健康教育の文献抄読 (小林) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第5回 健康教育③ (高血圧) (佐藤) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第6回 健康教育④ (糖尿病) (佐藤) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第7回 健康教育⑤ (脂質異常症) (佐藤) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する 第8回 生活習慣病に関する健康教育の文献抄読 (佐藤) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する
テキスト	特に指定しない
参考書・参考資料等	適宜紹介する
学生に対する評価	討議への参加度20%、レポート80%
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	在室時対応いたします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必須【博士前期課程】
担当教員			
藤本 昭・高橋宣弘			
講義		119022L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	わが国の健康政策を理解し、わが国の未来を見据え、実務に即した健康政策を提案することができる。
授業の概要	わが国の現状の健康政策について、諸外国の健康政策と比較しながら、文献抄読とディスカッションによって課題を抽出し、実務に即した未来への健康政策を提案する。 (オムニバス方式/全8回) (藤本昭/全4回) 成人・高齢者・障害者の健康政策について学ぶ (高橋宣弘/全4回) 栄養政策、認知機能に関する政策について学ぶ
授業計画	<p>第1回 成人の健康政策 (藤本) 事前学習：各回、事前にテキストの関連分野を熟読し、自らの意見をまとめておく。また、先行研究から近年の課題を抽出しておく 事後学習：参考文献や先行研究を活用しながら学びをまとめておく。</p> <p>第2回 高齢者の健康政策 (藤本) 事前学習：各回、事前にテキストの関連分野を熟読し、自らの意見をまとめておく。また、先行研究から近年の課題を抽出しておく 事後学習：参考文献や先行研究を活用しながら学びをまとめておく。</p> <p>第3回 障害者の健康政策 (藤本) 事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分)</p> <p>第4回 健康政策に関する文献抄読 (藤本) 事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分)</p> <p>第5回 栄養に関する健康政策 (高橋) 事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分)</p> <p>第6回 認知機能に関する政策① 認知機能施策の全体像 (高橋) 事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分)</p> <p>第7回 認知機能に関する政策② 予防・介入・エビデンス・将来展望 (高橋) (事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分))</p> <p>第8回 健康政策に関する文献抄読② (高橋) 事前学習：講義内容について事前に調べておく (30分) 事後学習：配布資料等で講義内容を振り返り理解を深める (30分)</p>
テキスト	厚生統計協会編：国民衛生の動向 2018/2019, 厚生統計協会.
参考書・参考資料等	荒川義子監修：医療福祉総合ガイドブック2017年度版, 日本看護協会出版会, 2019.
学生に対する評価	事前学習20%、講義、演習参加態度10%、レポート評価70%の合計で評価する。 提出期日が過ぎると定期試験放棄となるため単位認定不可(不合格)となる。
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	予約してください
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
小俣 直人			
講義		119023L6M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神および行動の障害の病態や治療などに関して、現在世界的に標準となっている知識を習得し、さらには最新の知見を広めることを目的とする。
授業の概要	人は、精神と身体の機能が保たれてはじめて、望ましい生活を送ることが出来る。従って、健康に地域で生活するためには、精神保健の知識が必須となる。 まずは精神医学の概念や精神症状の捉え方を十分に理解した上で、良好なラポールを形成する精神科面接を実践できるようにする。統合失調症や気分障害を中心に、認知症や神経症、発達障害など精神疾患全般を対象とし、疫学、評価診断法、治療法などを学習する。更に、精神保健福祉や法、倫理について学んだ上で、現代社会において精神障がい者が、地域を拠点として健康に生活できるよう取り組める医療者となることを目指す。
授業計画	<p>第1回 精神疾患の伝統的な分類と操作的な分類 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第2回 精神症状学：見当識とは何か、認知とは何か (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第3回 精神療法（特に支持的精神療法について） (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第4回 認知症：中核症状と行動・心理症状 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第5回 発達障害：診断や現状に関する考察 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第6回 てんかん（患者の運転に関する考察も含めて） (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第7回 アルコール依存症（家族や社会の問題も含めて） (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第8回 統合失調症：D2受容体の役割とは？ (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第9回 統合失調症：社会的入院について (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第10回 気分障害：内因性うつ病と心因性うつ病 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第11回 気分障害：抗うつ薬の作用機序 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第12回 気分障害：双極スペクトラム (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第13回 神経症：ストレスについて (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第14回 自殺の現状と対策 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p> <p>第15回 精神医療と人権、偏見・差別 (事前・事後学修) 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください</p>
テキスト	プリント
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	筆記試験100%

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および講義終了後に適宜返答する。
備考	事前・事後学修 指示した課題に関しては必ず予習・復習してください

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
供田文宏・小俣直人・吉田美幸・油野規代・吉江由加里			
講義		119024L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康生活支援に関する理論の理解、および健康な生活を維持するための支援方法について学修する。健康生活支援に関する理論について理解し、生涯発達からみた健康生活支援の必要性について説明できる。さらに、各発達段階に起こりうる精神衛生上の問題と健康維持のための支援方法について説明できる。
授業の概要	<p>健康生活支援に関する理論を理解するとともに、生涯発達からみた健康生活支援の必要性および、各発達段階に起こりうる精神衛生上の問題と健康維持のための支援方法について学修する。本講義では、多職種が一同に講義を受けることを考慮し、多角的・多面的な視野や思考過程を養うために多岐に渡る分野の講師にて講義を行うことを特徴としている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(供田文宏/全2回) 健康増進への取り組み、および生活習慣病予防に関する支援について (小俣直人/全5回) 生涯発達に関与する愛着形成、およびウェルビーイングに関する支援および成人期・老年期における精神衛生上の健康を保つ支援について (吉江由加里/全4回) 健康生活支援を支える理論と成人における健康を保つ支援について (吉田美幸/全2回) 健康生活支援に関連する理論と小児期における健康を保つ支援について (油野規代/全2回) 老年期における健康を保つ支援について</p>
授業計画	<p>第1回 健康生活支援に関連する理論の概要 (吉江由加里) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第2回 健康生活支援に関連する理論の概要 (吉江由加里) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第3回 健康生活支援に関連する理論の概要 (トランス・セオリティカル・モデル①) (吉江由加里) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第4回 健康生活支援に関連する理論の概要 (トランス・セオリティカル・モデル②) (吉江由加里) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第5回 生涯発達からみた健康生活支援① (愛着形成) (小俣直人) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第6回 生涯発達からみた健康生活支援② (健康増進とウェルビーイング) (小俣直人) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第7回 生涯発達からみた健康生活支援③ (腎臓病の発症機序に関する知見) (供田文宏) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第8回 生涯発達からみた健康生活支援④ (循環器病の発症予防への取り組み) (供田文宏) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第9回 乳児・幼児期における精神衛生上の問題と健康を保つ支援① (マリトリートメント) (吉田美幸) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第10回 学童・思春期における精神衛生上の問題と健康を保つ支援② (いじめ、不登校、引きこもり) (吉田美幸) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第11回 成人期における精神衛生上の問題と健康を保つ支援① (ストレス、自殺、ワークライフバランス) (小俣直人) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第12回 成人期における精神衛生上の問題と健康を保つ支援② (薬物依存、オーバードーズ、麻薬) (小俣直人) (事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第13回 老年期における精神健康問題と健康を保つ支援 (フレイル、ロモティブシンドローム、介護予防) (油野規代)</p>

	<p>(事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第14回 老年期における精神健康問題と健康を保つ支援 (認知症) (油野規代)</p> <p>(事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p> <p>第15回 老年期における精神衛生上の問題と健康を保つ支援 (虐待、拘束) (小俣直人)</p> <p>(事前・事後学修) 適宜, 課題を提示する</p>
テキスト	特に指定しない
参考書・参考資料等	適宜、紹介する
学生に対する評価	ディスカッション20%、レポート80%
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。メールでの対応もします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
吉江由加里・吉田美幸・油野規代			
演習		119025S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	各健康生活支援に関連した文献検討から、実践に即した健康支援計画策を立案、提言できる。		
授業の概要	<p>健康生活における研究や施策について討議し、健康の維持・向上に向けた健康支援策について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (吉江由加里/全8回) 病院における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援 職場・学校における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画作成の支援 (吉田美幸/全4回) 授業のリエンテーションと授業全体のまとめ 家庭における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援 (油野規代/全3回) 市町村・施設における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援</p>		
授業計画	第1回	健康生活支援のオリエンテーション (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第2回	市町村における健康生活支援に関連した文献検討 (油野規代) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第3回	施設における健康生活支援に関連した文献検討 (油野規代) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第4回	病院における健康生活支援に関連した文献検討 (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第5回	家庭における健康生活支援に関連した文献検討① (吉田美幸) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第6回	家庭における健康生活支援に関連した文献検討② (吉田美幸) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第7回	職場における健康生活支援に関連した文献検討① (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第8回	職場における健康生活支援に関連した文献検討② (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第9回	学校における健康生活支援に関連した文献検討 (吉田美幸) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第10回	健康の維持・向上に向けた健康支援計画の作成：関心のある健康問題に対する健康支援策立案① (油野規代) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第11回	健康の維持・向上に向けた健康支援計画の作成：関心のある健康問題に対する健康支援策立案② (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第12回	健康の維持・向上に向けた健康支援計画の作成：関心のある健康問題に対する健康支援策立案③ (吉田美幸) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第13回	健康の維持・向上に向けた健康支援計画の作成：関心のある健康問題に対する健康支援策立案④ (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第14回	健康の維持・向上に向けた健康支援計画の作成：関心のある健康問題に対する健康支援策立案⑤ (吉江由加里) (事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください	
	第15回	健康支援策の発表 : 吉江由加里	

	(事前・事後学修) 自己の研究課題の探求に主体的に取り組んでください
テキスト	特に指定しない
参考書・参考資料等	適宜、紹介する
学生に対する評価	ディスカッション20%、プレゼンテーション80%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時、随時対応します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
北川敦子・猪口 徳一			
講義		119026L5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康問題を抱えた人々を健康な状態へ回復するための方策および、回復した健康を維持するための方策を、創傷を例に取り上げ、その実際を知り、さらに発展させて健康障害を持つ人々の健康を支援する方法を修得する。
授業の概要	健康障害を起こすメカニズムを解明するための方法に動物実験がある。動物実験を行うための方法と研究計画立案を学ぶ。さらにこれらを踏まえ、健康障害の一つとして創傷を取り上げ、健康障害を持った人々が健康を回復し維持する過程を支援する方法を学ぶ。さらにこの支援方法を発展させ、健康障害を持つ人とそれを取り巻く人々への支援方法について学ぶ。 (オムニバス全15回) (猪口徳一／全2回) 動物実験を行うための安全教育と研究計画立案を学ぶ。 (北川敦子／全13回) 健康障害とは、創傷の予防及び治癒に関する教育や支援方法、健康障害を持つ人及びそれを取り巻く家族への支援方法について学ぶ。さらに験から得られた創傷の発生メカニズム・治癒過程の結果を健康障害からの回復・維持への活用方法を考察する。
授業計画	<p>第1回 動物実験における倫理的配慮と研究計画（猪口）</p> <p>第2回 遺伝子組換え実験についての安全教育（猪口）</p> <p>第3回 健康障害とはなにか、健康障害を持つ意味（北川）</p> <p>第4回 創傷の発生に影響を及ぼす身体的・心理的・社会的要因①（北川）</p> <p>第5回 創傷の治癒に影響を及ぼす身体的・心理的・社会的要因②（北川）</p> <p>第6回 動物実験から得られた創傷の発生メカニズム・治癒過程の結果を健康障害からの回復・維持への活用方法を考察（北川）</p> <p>第7回 創傷の予防（再発予防も含む）に向けた支援（北川）</p> <p>第8回 創傷の治癒に向けた支援（北川）</p> <p>第9回 リスクのある対象者への予防方法の教育（北川）</p> <p>第10回 創傷を持つ対象者への治癒に向けた教育（北川）</p> <p>第11回 家族・介護者への教育（予防・治療）（北川）</p> <p>第12回 健康障害を持つ人々の家族および介護者への健康回復に向けた支援方法（北川）</p> <p>第13回 健康障害から回復した人々に対しての健康を維持する支援方法（北川）</p> <p>第14回 健康障害から回復した人々の家族に対しての健康を維持する支援方法（北川）</p> <p>第15回 健康障害を持つ人々とその家族を取り巻く医療従事者への支援方法（北川）</p>
テキスト	資料配布
参考書・参考資料等	真田弘美 著：ナースのためのアドバンスド創傷ケア、照林社、2012.
学生に対する評価	授業最終回後のレポート90%、事前課題レポート10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。 メールでの対応もします。

備考	事前・事後学修 事前：本講義受講前に、「健康障害を持つ意味」について各自の考えをまとめ、授業最初に提出すること。 これを用い、第3回目の授業を展開する。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択【博士前期課程】
担当教員			
北川敦子			
演習		119027S5M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	疾病から回復して健康な生活を取り戻し、新たな生活を作り出していく力を支援するために、関連した文献検討から、実践に即した支援計画策を立案、提言できる。
授業の概要	疾病から回復して健康な生活を取り戻し、新たな生活を作り出していく力を必要としている人々とその家族に対する支援について学修する。
授業計画	<p>第1回 新たな生活を再構築する支援方法とは (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第2回 創傷治癒後における生活の再構築の支援計画とは (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第3回 がんサバイバーの生活の再構築の支援に関する文献検討 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第4回 がんサバイバーの生活の再構築の支援計画の作成 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第5回 がんサバイバーの生活の再構築の支援計画の発表と討論 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第6回 がんサバイバーを支える家族の生活の再構築の支援に関する文献検討 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第7回 がんサバイバーを支える家族の生活の再構築の支援計画の作成 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第8回 がんサバイバーを支える家族の生活の再構築の支援計画の発表と討論 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第9回 疾病から回復した人に対する生活の再構築の支援計に関する文献検討（※疾病とは、自分の興味のある疾患やライフステージを選択すること） (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第10回 疾病から回復した人に対する生活の再構築の支援計画の作成 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第11回 疾病から回復した人に対する生活の再構築の支援計画の発表と討論 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第12回 疾病から回復した人々を支える家族の生活の再構築の支援の文献検討 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第13回 疾病から回復した人々を支える家族の生活の再構築の支援計画の作成 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第14回 疾病から回復した人々を支える家族の生活の再構築の支援計画の発表と討論 (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p> <p>第15回 疾病から回復し健康を維持する新しい生活を作り出す力への支援計画（まとめ） (事前・事後学修) 提示された課題に対する自己学習</p>
テキスト	資料配布
参考書・参考資料等	鈴木久美ほか 編：慢性期看護 病気とともに生活する人々を支える 第3版、2019. 古賀雄二ほか 編：日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護：基礎から臨床応用まで、2019.
学生に対する評価	支援計画書80%、プレゼンテーション20%（ルーブリック評価）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。 メールでの対応もします。

備考	
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1-2年	10	必須【博士前期課程】
担当教員			
小林・供田・小俣・林・堀秀昭・藤本・堀敦志・石田・北川・吉田・寺島・近藤・近田・藤田・川端・塩見・猪口・保屋野・東・吉江・佐藤			
演習		119028S5/6M	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	各コースの講義、演習等で学んだ概念や理論、研究デザイン等の内容を踏まえ、研究遂行能力を養う。
授業の概要	学生が選択した研究領域の中から、研究指導教員の指導のもとに決定した研究課題について、研究目的を達成する研究手法を見出し、実現可能な研究計画を立ててデータを収集し、データの分析、結果の解釈、考察を経て、修士論文を纏め上げる。また、研究成果を効果的に提示（発表）する手法も学修する。
授業計画	<p>授業の概要</p> <p>(小林康孝) 中枢神経疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害における、脳の可塑性を考慮した神経回復メカニズムの解明とその治療や支援方法について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(供田文宏) 近年増加の一途を辿る生活習慣病の予防と克服のため、地域を拠点とした生活習慣改善の取り組みと実践について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(小俣直人) 現代社会において精神障がい者が、地域を拠点として健康に生活できるようになる取り組みについて具体的なテーマを決め、精神疾患に関する生物学的なアプローチや精神病理学的な視点も鑑みながら研究計画を立案する。調査や文献からデータを収集し、分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(林浩嗣) 中枢神経疾患に伴う運動障害や認知機能障害における、病態メカニズムを考慮した治療や支援方法について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(堀秀昭) 加齢によるバランス能力の変化を身体機能面からとらえ、その能力の維持・向上により、健康寿命の延伸に寄与するような具体的な支援方法を、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(藤本昭) 転倒予防に関する身体および精神機能評価とその介入効果についての研究方法を指導する。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(堀敦志) 在宅高齢者の身体・精神的側面のみでなく、生活環境やサービス利用など様々な環境因素的側面や多職種とのマネジメントによる生活支援のあり方について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(北川敦子) あらゆる対象の褥瘡などの創傷における既存の予防方法、治療促進方法から健康な生活を再構築するための生活自体を中心においた新しい創傷ケアの開発を行う。さらに、創傷をもつものにこだわらず幅広い健康な生活を促進するための実態調査や支援のための看護技術についての研究を行う。そのために、文献検討、フィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。研究課題の解決のために研究計画の立案から、データ収集、データの解析、結果の解釈から既存の支援方法の検討および新しい支援方法を見出す。この一連のプロセスを継続して論文指導を行う。</p> <p>(吉田美幸) 子どもとその家族に対する健康生活支援に関する文献検討を行い、自己の研究課題を明らかにする。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(石田圭二) 中枢神経疾患に伴う神経系疾患における上肢機能障害とそのリハビリテーションについて、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(寺島喜代子) 病院、高齢者施設、居宅など多様な生活の場の、さまざまな健康レベルの高齢者の健康生活支援に関して、文献検討やフィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。課題の解決に向けて研究計画を立てる。倫理的配慮に関して熟考・記述し、倫理審査に申請する。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(近藤仁) スポーツ傷害に対する受傷機転や発生要因の検証、客観的機能評価に対する信憑性および再現性について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(近田真美子) 精神保健上の問題を抱えた人々に対する実践について文献検討を行い、自己の研究課題を明らかにする。研究計画書を立案し、データ収集、分析、考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(川端香) 中枢神経疾患に伴う高次脳機能障害の病態理解、効果的な治療方法や支援方法などに関する研究において、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。</p> <p>(藤田和樹)</p>

中枢神経障害患者の運動機能障害について、筋電図分析などの運動生理学的な観点から科学的に評価し、そのメカニズムの解明や効果的な治療法の開発等に関する研究指導を行う。

(吉江由加里)

あらゆる健康問題からの回復における課題解決に向けて、InterProfessional Work (専門職連携実践: IPW) を促進するための教育・支援に関する研究において、研究計画に基づき、データ収集・分析、考察といった論文作成の過程を指導する。

(塩見格一)

タブレットや VRゴーグル等をプラットフォームとして身体及び精神の機能や状況の評価するパフォーマンステスト設計・試作し、評価においてはテストログに併せて脈波や音声等を収録し、障がい者を含む被験者のワークロードやストレス等の分析に関する研究指導を行う。

(猪口徳一)

脳の発達・老化に伴う変化や、関連する疾病・健康問題に対して、正常な脳の仕組みや病態の解明に関する基礎研究から疾病予防や健康増進のための指標探索などの応用研究までを対象に、形態学的・生化学的解析や遺伝子発現解析を中心とした研究計画を立案し、実験・データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。

(保屋野健悟)

コミュニケーション機能、高次脳機能、摂食嚥下機能について、基礎研究や症例研究等を通してメカニズムの解明や新たな治療介入等に関する研究指導を行う。

(東伸英)

運動器障害やスポーツ傷害に関する理学療法評価、治療や傷害予防の介入効果について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。

(佐藤万美子)

脳血管障害による身体障害者や高次脳機能障害者が、社会復帰を目指す際における問題点に注目し、科学的分析を行った結果に基づいたリハビリテーションや支援方法について検討するための研究指導を行う。

授業計画

特別研究の考え方

・運動器リハビリテーションコース

運動器疾患で生じる発生病序および受傷機転、症状経過における課題を見出し、修士論文の研究指導を受けて、運動器疾患のリハビリテーション治療またはスポーツ傷害予防に貢献する基礎的研究・臨床的研究の基盤の修得を目指す。

・神経系リハビリテーションコース

神経系疾患で生じる症状発現の機序および症状経過における課題を見出し、また高齢者の特徴である運動機能の低下、感覚機能の低下、神経機能の低下等の生理機能の低下の特徴を神経学的観点から考え、さらに地域での生活支援における課題を見出し、修士論文の研究指導を受けて、神経系疾患のリハビリテーション治療に貢献する基礎的研究・臨床的研究の基盤の修得を目指す。

・健康生活支援コース

健康な生活の維持・増進、あるいは健康問題からの回復における課題を見出し、修士論文の研究指導を受けて、健康生活の向上に貢献する基礎的研究・応用研究の基盤の修得を目指す。

授業の内容としては、主に研究指導教員から研究の遂行に必要な助言・指導を受ける

1年次前期 60時間

- 1) 研究課題を、文献検討により明確にする (6月)
- 2) 明らかになった研究課題に適する研究方法論を学習し、その方法を習得する (6~9月)
- 3) 研究計画書を作成し、必要に応じて倫理審査委員会の審査を受ける (6~9月)

・運動器リハビリテーションコース

医療施設、学校、スポーツ現場、地域における障害・外傷予防、健康増進のための実践方法について学ぶ研究運動器リハビリテーション特論Ⅰ、代表的なスポーツ傷害の特徴を理解し、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション実践を学ぶ運動器リハビリテーション特論Ⅱを履修し、研究方法論Ⅰで研究に関する基礎学力を養うなかで、解決すべき研究課題をみつけ、研究計画を作成する。

・神経系リハビリテーションコース

高次脳機能障害や認知症に対する神経リハビリテーションおよび支援方法について学ぶ神経系リハビリテーション特論Ⅰ、高齢者の加齢による運動機能の低下、感覚機能の低下、神経機能の低下等の生理機能の低下について神経学的観点から考え、同時に高齢者の地域での生活を支援する具体的なマネジメント方法について学ぶ神経系リハビリテーション特論Ⅱを履修し、研究方法論Ⅰで研究に関する基礎学力を養うなかで、解決すべき研究課題をみつけ、研究計画を作成する。

・健康生活支援コース

身体的・精神的・社会的に満たされた状態を維持するために必要な支援方法や、社会で生活していくときに生じる問題とその支援方法を学ぶ健康生活支援特論Ⅰ、健康生活支援特論Ⅱを履修し、研究方法論Ⅰで研究に関する基礎学力を養うなかで、解決すべき研究課題をみつけ、研究計画を作成する。

1年次後期 30時間

- 4) 研究計画に基づく調査・実験等を実施する。

・運動器リハビリテーションコース

運動器障害を対象とした症例研究、事例研究を通じて、研究倫理から研究計画の立案・発表にいたる研究の基礎を学ぶ運動器リハビリテーション特論演習Ⅰ、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション実践を演習形式にて学ぶ運動器リハビリテーション特論演習Ⅱを修得するなかで実施している研究計画について検討を加える。

・神経系リハビリテーションコース

脳卒中後の運動障害・高次脳機能障害・認知症を対象とした研究倫理から研究計画の立案・発表にいたる研究の基礎を演習形式で学ぶ神経系リハビリテーション特論演習Ⅰ、地域における生活支援と評価の進め方や転倒予防・介護予防に関する具体的な地域におけるマネジメントの視点を演習形式で学ぶ神経系リハビリテーション特論演習Ⅱを修得するなかで実施している研究計画について検討を加える。

・健康生活支援コース

身体的・精神的・社会的に満たされた状態を維持するために必要な支援方法や、社会で生活していくときに生じる問題とその支援方法を演習形式で学ぶ健康生活支援演習Ⅰ、健康生活支援演習Ⅱを修得するなかで実施している研究計画について検討を加える。

	<p>2年次前期 120時間</p> <p>5) 研究計画に基づく調査・実験等を継続する。 6) 調査結果を分析・考察し、目的に沿った結論を導き出す。また、医療に貢献しうる新しい知見を見出す 7) 中間発表会を実施する（4月）</p> <p>2年次後期 90時間</p> <p>8) 研究プロセスを論文にまとめる（10月上旬～1月上旬） 9) 修士論文提出及び最終試験（1月～2月）</p> <p>※各指導教員と個別に相談のこと</p> <p>研究の遂行に必要な文献収集・データ収集・分析・論文作成等の作業は、授業時間外に行う場合がある。</p>
テキスト	資料配布
参考書・参考資料等	他、講義時に紹介する
学生に対する評価	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、研究指導教員が総合的に評価する。尚、本学修士論文としての承認決議は、論文審査員による審議を経て最終的に研究科委員会で決定する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	各自教員と相談のこと
備考	事前・事後学修 指導教員と充分研究に関し相談すること 各自の研究テーマに関連した知識についての主体的学習